

「卒業研究」の成績評価基準表

機械工学科

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

評価対象	主査 (%)	副査 (%)	M科全教員の平均 (%)
A: 知的財産権・工学倫理	100		
B: 中間報告書	50	50	
C: 中間発表会			100
D: 卒業論文	60	40	
E: 卒業研究発表会			100
F: 実施報告書	100		

授業目標	到達基準				評価対象						合計 (%)
	未到達基準	最低基準	標準基準	優秀基準	A	B	C	D	E	F	
	点数	点数	点数	点数	5	20	15	30	20	10	
1. 背景・目的を説明し、明確に記述できる。	背景または目的が記述できない。	背景と目的を記述できる。	目的が背景と関連付けて明確に記述できる。	先行研究の概要と問題点、研究の着想に至った背景を示し、それらと関連付けて、新たに説明または解決しようとする事柄を研究目的として明確に記述できる。							
	1・2点	3点	4点	5点		5		5			10
2. 理論、実験、シミュレーションいずれかの方法を用いて研究の遂行ができる。	理論、実験、シミュレーションいずれかの方法を用いて研究の遂行ができない。	理論、実験、シミュレーションいずれかの方法を用いて研究の遂行ができる。	理論、実験、シミュレーションいずれかの複数の方法を用いて研究の遂行ができる。	理論、実験、シミュレーションの複数の方法を組み合わせて用いて研究の遂行ができる。							
	1・2点	3点	4点	5点		5		5			10
3. 科学的な方法・手段によってデータを収集し、整理できる。(C2-3)	データ収集の手法・手段を説明できない。	データ収集の手法・手段を説明できる。	データ収集の手法・手段を図表等を用いて説明でき、報告では収集したデータを整理してまとめることができる。	データ収集の手法・手段を図表等を用いて分かりやすく説明でき、報告では収集したデータを図表等に整理してまとめ、その特徴を記述できる。							
	1・2点	3点	4点	5点		5		5			10
4. 論旨が明確な文章を用いて説明できる。	論旨を展開できず、飛躍する箇所がある。	飛躍することなく、論旨を展開できる。	前提条件を示し、飛躍することなく論旨を展開できる。	前提条件を示し、専門用語・数式・図表等を用いて飛躍することなく論旨を展開できる。その適用範囲について明示できる。							
	1・2点	3点	4点	5点		5		5			10
5. 口頭発表で研究内容を説明できる。(D1-3)	発表会において、規定に従った報告ができない。	発表会において、規定に従った報告ができる。	発表会において、規定に従った報告ができ、研究内容を伝え、質疑の内容を理解することができる。	発表会において、規定に従った報告ができ、研究内容を正確かつ理解しやすく伝え、質疑応答を行うことができる。							
	15%では、1～8点 20%では、1～11点	15%では、9点 20%では、12点	15%では、10～12点 20%では、13～16点	15%では、13～15点 20%では、17～20点			15		20		35
6. 文献調査を行い、卒業論文に記述できる。(E2-3)	文献調査の結果が卒業論文に記述できない。	文献調査を行い、卒業論文に記述できる。	複数の学術論文等の文献調査を行い、卒業論文に記述できる。	国内外の複数の学術論文等の文献調査を行い、卒業論文に記述できる。							
	1・2点	3点	4点	5点				5			5
7. 研究題目、キーワードおよび図表のキャプションを英語で記述できる。	研究題目、キーワードおよび図表のキャプションを英語で記述できない。	研究題目、キーワードおよび図表のキャプションを英語で記述できる。	誤字や脱字がなく、研究題目、キーワードおよび図表のキャプションを英語で記述できる。	誤字や脱字がなく、適切な専門用語を用いて研究題目、キーワードおよび図表のキャプションを英語で記述できる。							
	1・2点	3点	4点	5点				5			5
8. 知的財産権と工学倫理を学習し、これらを研究遂行に活用できる。	知的財産権と工学倫理の授業を受けていない。	知的財産権と工学倫理の授業を受けて、レポートを提出した。	知的財産権と工学倫理の授業を受けて、事例を挙げて説明するレポートを提出した。	知的財産権と工学倫理の授業を受けて、事例を挙げて説明し、考察した内容を記述したレポートを提出した。							
	1・2点	3点	4点	5点	5						5
9. 実施した内容を報告することができる。	報告書により、実施した内容を報告できない。	報告書により、実施した内容を報告できる。	報告書により、実施した内容を報告でき、問題点などを記述できる。	報告書により、実施した内容を報告でき、問題点と次回の予定等を記述できる。							
	1～5点	6点	7～8点	9～10点						10	10
備考	・評価対象A～Fの重み%は、主査と副査の重み付けをして計算します。 ・学生は自己採点した成績評価基準表をポートフォリオに閉じてください。										